

日本の里海を世界に発信！動画教材「里海創生」が完成しました！ ～石川県能登半島の沿岸に暮らす人々と、海との共生をテーマに～



石川県能登地方で実践されている伝統漁法や牡蠣の養殖は、環境負荷が低く持続的な資源管理とされています。この動画は、そんな里海創生に携わる地域の人々や行政の取り組みを紹介しています。人と海の共存に試行錯誤を重ね続ける能登の経験は、他の国や地域にも活用できる考え方として期待されています。



動画『里海創生～人と海の共生のあり方』



動画／日本語 動画／英語

JICA北陸's World

国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2022 北陸の学生が外務大臣賞と国際協力特別賞を受賞！

2022年6月～9月に「世界とつながる私たち～未来のための小さな一歩～」をテーマに作品募集しました。優秀な作品として、表彰されたお二人にお話を聞きました！

北陸3県の他の受賞者やコンテストの概要はこちら▶



出発する新JICA海外協力隊

(①派遣国/②職種/③出発時表敬先)



曾明 航さん

- ①ラオス
- ②コミュニティ開発
- ③石川県金沢市

2023年5月派遣予定

ラオスのルアンパバーン県農林局で有機作物農家の生産から販売までの一元管理を支援する予定です。初めての国、言語、業務ですが楽しむ心と「ボーベンヤン(大丈夫、問題ない)」で現地の方々と共に活動します！



森田 千晴さん

- ①インドネシア
- ②野菜栽培
- ③福井県福井市

2023年7月派遣予定

西ジャワ州の農業高校で活動予定です。日本の農業や野菜栽培の紹介といった活動を通じて、インドネシアの高校生が自国の農業資源について再認識したり、進路選択の視野が広がったりするきっかけを作りたいです。



松本 祐尚さん

- ①ホンジュラス
- ②小学校教育
- ③富山県小矢部市

2023年4月派遣予定

3年前にホンジュラスに派遣され、新型コロナウイルス感染症拡大のため緊急帰国しました。今回も同じ小学校で活動できることになりとても楽しみにしています。2年間の活動を充実したものにできるように現地で頑張ってきます!!

派遣中のJICA海外協力隊 (2023年2月6日 現在)

富山 17名 石川 4名 福井 7名



2023年春 応募期間 5・19(金)▶7・3(月)

世界もあなたも、可能性に満ちている。「協力隊」であたらしい自分に出会いに行きませんか？

JICA海外協力隊

募集情報公開
プレエントリー開始
4・27(木)

募集説明会開始
5・13(土)

要請情報公開
5・13(土)～

情報掲載は
コチラ

最終可否通知
10・26(木)

高校生の部 国際協力特別賞 受賞

石川工業高等学校専門学校(3年)
高木 大雅さん



高木さん(左)と留学生のモートリャクサさん

受賞作品名 「カンボジアの窓から見た世界」

石川高専で建築学を学ぶ高木さんは、カンボジアからの留学生とクラスメイトとなりました。将来祖国の発展のために活躍したいという彼の思いに触れたことをきっかけに、高木さんが関心を寄せる「街づくり」の取り組みでも、幅広い視野で物事を考えることの重要性を感じ、その国や地域の風土に根差した「持続可能な建築」の大切さについて考えるようになりました。「将来は開発途上国でも活躍できるように、専門的な知識や語学を身に付けていきたい」と話してくれました。

インタビューの続きや作品はこちら

中学生の部 最優秀賞 外務大臣賞 受賞

射水市立射北中学校(2年)
棚田 武蔵さん



コンポストに使用したトートバック



受賞作品名 「僕の小さな一歩」

幼少の頃からお母さんが生ごみをコンポストで堆肥化して、活用している姿を見てきた棚田さん。環境負荷の軽減のために自分ができることを考えた時、いつかやってみたいと思っていたコンポストにチャレンジすることに。お母さんが計量した生ごみを、トートバックに投入して観察するのが棚田さんの役目でした。実際にやってみた棚田さんは、「家にあったトートバック一つで出来る簡単な取り組みなので、多くの人にチャレンジしてほしい」と話してくれました。こうした小さな取り組みでも、一人一人が実践し、積み重ねていくと地球規模課題のような大きな課題解決にも繋がるというメッセージが込められています。

インタビューの続きや作品はこちら